

## 令和3年度 第1回 四街道市立図書館協議会会議録

日 時	令和4年 2月 2日 (水) 午後2時～午後3時25分
場 所	四街道市立図書館3階会議室
出席委員	竹内委員、坂本委員、重田委員、福田委員 片渕委員、富樫委員
欠席委員	米村委員、村井委員、越島委員、池田委員
事務局	府川教育長、小野図書館長
傍聴人	0人

### 【会議次第】

1. 開 会
2. 委嘱状交付
3. 教育長あいさつ
4. 委員紹介
5. 会長および副会長の選出について
6. 議事録署名人の指名について
7. 会議の公開等について
8. 議 題
  - ・報告事項等
    - 1) 令和3年の図書館サービス状況について
    - 2) 電子図書館の開設から今日まで
    - 3) その他
9. 閉 会

### 【会議経過】

1. 開 会
2. 委嘱状交付
3. 教育長あいさつ
4. 委員紹介
5. 会長および副会長の選出について
  - ・会長に重田委員、副会長に米村委員を選出
6. 議事録署名人の指名について
  - ・議事録署名人は、会長より竹内委員を指名
7. 会議の公開等について
  - ・会議は公開とし、議事録の作成のため会議の録音、発信は要点筆記とする。
8. 議題
  - ・報告事項等

(重田会長) それでは、議案の審議に入ります。「令和3年の図書館サービス状況」について、事務局から説明をお願いします。

(事務局) お配りした資料の「令和3年の図書館サービス状況について」をご覧ください。項目1.開館状況ですが、新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休館があり、開館日が当初の予定より28日減少しました。臨時休館中は、児童室に臨時窓口を設け、予約資料の貸出等を行いました。臨時休館に対する市民の声といたしましては、休館せずに開館を望むものが多くありました。

項目2.利用制限の緩和についてですが、感染症の状況、四街道市の感染症対策、県内図書館の制限緩和状況、市民要望などの要件を総合的に判断し、令和3年12月から座席の利用時間を通常通りの4時間へ拡大しました。アメリカ国立衛生研究所等の研究チームは、新型コロナウイルスは段ボールの表面で最長24時間生存したと指摘しています。当館では、紙に付着したウイルスの無効化のため、返却された資料の隔離を実施しています。

項目3.主催事業の状況ですが、集会事業は会場を会議室や屋外に変え、人数制限を行ったうえで再開しています。児童向けには夏休み、冬休みにイベントを開催しました。テーマに沿った展示活動は例年と変わりなく続けています。

項目4.利用状況は表に記載の通りです。

図書館でも感染症の影響を受け、来館者が減っている状況です。感染症対策を行いながら、引き続き、読書意欲を喚起できるような活動を心掛けてまいりたいと考えております。

(重田会長) ただいま、事務局から「令和3年の図書館サービス状況」について説明がありました。コロナ禍の下で読書量の変化などございましたでしょうか。

(坂本委員) 幼稚園では読み聞かせをしますので、読書量についてはコロナ禍でも変わっていません。一週間に4日以上、読み聞かせを行うようにしています。

(竹内委員) コロナ禍で休校もありましたが、校内の図書館で貸し出し分を増やしていました。幼稚部では毎日読み聞かせを行っています。外に借りに行く機会は減っていますが、環境の中では、読書量は維持できていると思います。

(片渕委員) 図書館で借りるのは少し減りました。家にいる時間が増えたこともあり、本を読む機会は増えたと思います。図書館の入り口にウイルス除去の装置があって安心できました。

(重田会長) 感染症対策で県からの指導はあるのですか。

(事務局) 業界のガイドラインとしまして日本図書館協会から細かな基準が示されております。

(重田会長) それでは、報告事項の2「電子図書館の開設から今日まで」について、事務局より説明をお願いします。

(事務局) 四街道市電子図書館の開設からちょうど1年となりました。電子図書館の開設に当たり、新型コロナウイルス対応地方創生臨時交付金を活用しています。新型コロナウイルス対応地方創生臨時交付金は、感染拡大の影響を

受けている地域経済や住人の生活を支援し、地方創生を図るための交付金で、自治体が地域の実情に応じて必要な事業を実施するものです。電子図書館は外出することなく、いつでも、どこでも読書が楽しめる環境を作るもので、新しい生活様式にあった事業として認められました。準備期間はおよそ4か月でした。昨年1月25日に報道発表を行うと、マスコミからの取材が続き、情報番組で四街道市が好意的に報道されたこともあり、3月に予算が追加され、電子書籍の充実が図られました。

電子図書館の導入に際し重要視したことは、利用カードを持つ市民は申し込み手続き不要ですぐに電子図書館を利用できる環境づくりです。幸い、交付金を活用できたことで電子図書館への利用者登録はスムーズに行うことができました。開設以降は、利用統計を分析しながら、興味を引く電子書籍、読んでほしい電子書籍をテーマごとに目立つように掲載しながら、利用促進を図っています。

四街道市の小中学生は、一人1台タブレット端末が配布されています。このタブレット端末に電子図書館のショートカット・アイコンを設定していただいています。授業や読書タイム、長期の休みなどに電子書籍が活用されているようです。

電子図書館の利用状況ですが、開設時から比べ、減少が続いています。先に導入した市の状況からも同じ推移が見られます。今後は利用数の維持向上を図っていくことが課題になります。一方で、電子図書館では20代、50代の年齢層に特徴があると考えています。図書館では、この2つの年齢層で利用が減少していることが課題でした。電子図書館では、20代、50代での減少がありません。この特徴を重視し、20代、50代をターゲットにした電子書籍の選定も行っています。今後は、電子書籍による読書、紙による読書の特性をつかみながら、双方の推進を図ってまいりたいと考えています。

(重田会長) 紙の本と電子書籍の量がいずれ逆転するのではと思います。個人的には紙の本に愛着は尽きないのですが、電子書籍には長所も短所もあると思います。みなさんのご意見はいかがでしょうか。

(坂本委員) 初等教育の初めの段階の読書なので、幼稚園では電子書籍は子どもたちには直接おろしてはいません。先生方は教材としてタブレットを使っています。子どもたちに一番人気があるのは図鑑です。植物・昆虫・乗り物などは毎年買い替えなければいけないほどボロボロになります。調べ物をするときパソコンで調べればすぐ答えが出てきますが、ものの系統図や分類が子どもたちに身に着く前に答えが出てしまうことが心配になりました。実体験や、ああでもないこうでもない調べるうちに法則性を見つけることができるよう、図鑑や調べ学習の本を置いています。子どもたちはすごく読んでいます。電子関係は導入していません。

(重田会長) 時代時代で感性が変わりつつある。幼年期、少年期はモノ、本物を受け入れるような感性、青年期になれば超一流の言葉に触れる、自分の人生を深掘りできる本に会うことが重要。図書館のような公的役割はそのようなものに接するチャンスを広げてくれることを期待します。

私は日頃から言葉に5つの力があると考えています。1. 言葉を読む力、2. 言葉を書く力、3. 言葉話す力、4. 言葉を聴く力、5. 考える言葉 この5つを中心に考えていくと図書館のビジョンが見えてくると思います。新しいチャレンジをビジョンとして掲げて、この委員会でアイデアを交換して館長に伝え、それに応じた改善改革ができれば意味があると考えます。

(富樫委員) 経費についてですが、電子図書館のランニングコストについて。電子図書館クラウドサービス利用料11万円については。

(事務局) 令和3年2月、3月のクラウドサービス利用料2か月分が11万円ということでございます。

(富樫委員) 電子書籍購入費用ですが、1,890タイトルで616万5,500円ですが、現状変わらないということではよろしいでしょうか。

(事務局) スタート時は1,890タイトルでしたが、現在3,142タイトルでございます。

(富樫委員) 分野としては、どういう分野に分かれていますか。

(事務局) 一番多いのは文学です。

(富樫委員) 文学で何パーセントぐらいですか。

(事務局) 文学は35.8パーセントになります。次に技術家政が多く16.9パーセントとなっております。

(富樫委員) 児童書はこの中にありますか。図鑑などは。

(事務局) 小学生向けの学習図鑑とはちょっと違いますが、読み物的な図鑑は多数入っております。絵本、英語の絵本、青い鳥文庫などが入っております。

(富樫委員) これだけのコストをかけて導入されたシステムが先細っている現状に関しては、どのような策をとっていかれると考えですか。

(事務局) 開設の時は注目を集めますが、その後一時期の興味がさめて離れてしまうこともあります。電子図書館は千葉県内で15館ほどありますが、他市を分析すると四街道市の水準はさほど悪くないと考えています。電子書籍で選べる範囲に制約はありますが、できるだけ市民ニーズ、読まれている年代に合わせた選書をしていきたいと思っています。電子図書館の広報活動を行うこと、移動図書館の小学校巡回での、電子図書館の紹介、利用カード登録推進によりすそ野を広げていきたいと思っています。

(富樫委員) PR活動はなにか具体的な方法は考えていらっしゃるのでしょうか。

(事務局) 電子図書館は24時間365日利用できること、本のしおり、新着案内などの印刷物、また、多くのアクセスがある図書館ホームページの活用を行っています。

(富樫委員) 四街道市の広報紙に載せる考えは。

(事務局) 広報に関しましては、掲載できる紙面が限られているので、特集を組むということは難しい状況です。

(富樫委員) わかりました。これだけの市民のお金を使っていること、電子図書館が24時間使える利便性を考えると市民のみなさんにもう少し浸透して使っていただけ

ればと思います。

(福田委員) 電子図書は情報を引き出すには便利ですが、深みはない。情報の組み立てや、自分なりの世界観をもつためにも、紙の本との併用が必要です。図書館本来の業務から外れるかもしれませんが、文章教室の開設も必要だと思う。電子機器で人を攻撃することが多くなっている。取捨選択し、苦しい世の中を強く生きていく強靱性を養うため、紙の書籍と電子書籍をうまく活用する必要があると思います。

(重田会長) ありがとうございます。良いものに触れること、これが第一です。見分ける力がついてくる。見分けられる感性がつくような子どもたちを育てる四街道ということを中心軸に据えるといいのではと思います。どういうものにお金をかけるか難しいが、職員は目利きを育てなければならない。職員は自分の目を鍛えていかなければならない。図書館は単に本を置いているところではなく、言葉の館という場としての役割が出てくると他市にない誇れる図書館になるのではないかと思います。

(事務局) 委員の皆様が新しくなって、初めての図書館協議会でございます。四街道市民にとって、よりよい図書館となるため、取り組むべきことや目を向けるべきこと、お気づきの点について、委員の皆様より、ご意見を頂ければと存じます。

(竹内委員) PRについて、盲学校は四街道駅と連携していますので、掲示板に1コーナーいただいで貼るなどでもいいですし、また、子どもの声で構内アナウンスを流させていただいているのも活用するなど。またイトーヨーカドーなどで貼ってもらうなどいかがでしょうか。

(富樫委員) 四街道市はPRの仕方がうまくないです。私は品川区に20年以上住んで行政の仕事をしていましたが、品川区はPRがうまいです。四街道市は取り組みが市民に伝わっていない。めいわ地域の方は四街道の図書館に行かず千葉市中央図書館に行く人が多い。千葉市美術館の図書室コーナーなどを参考にされてはと思います。図書館は、単に本を貸し出すだけでなく老いも若きも勉強できる、知の殿堂のように四街道の図書館が発展していただきたいと思います。

授乳コーナーはどこにあるのでしょうか。

(事務局) 児童室の洗面所のところがございます。

(富樫委員) わかりづらい気がします。あと、エレベーターですが、健常な方は利用しないように貼られていましたが、職員が使っていました。

(事務局) 確認いたします。みなさんに気兼ねなく使っていただければと思います。

(重田会長) 財源も限られている市ですので、知恵をしぼって、いいヴィジョンと指針、ボランティアなどのピラミッドがネットワークをつくっていけば、かなりのことができると思います。人類の残してきた知が図書館にありますので、委員で協力、工夫して改善できることは努めたいと思います。

(事務局) 令和4年度の第1回目の図書館協議会は、10月頃を予定しております。日程が決まりましたらお知らせいたします。どうぞ、よろしくお願いいたします。

9 閉 会

(重田会長) 本日は、ありがとうございました。

会議録署名人 竹内 登志子